

先進自治体事例紹介②

#	自治体名	講演名
2	福岡県北九州市（産業経済局未来産業推進部スタートアップ推進課）	北九州市におけるスタートアップ支援

【発言要旨】

■北九州市のスタートアップ支援の概要

- 平成30年度に創業支援の中核施設をリニューアルし、本格的にスタートアップ創出支援に取り組み始めた。その後、令和2年には内閣府より「スタートアップ・エコシステム推進拠点都市」に選定され、北九州市におけるスタートアップ機運が大きく醸成される契機となった。
- 北九州市の強みである環境、ロボット、DX分野を中心に、テック系のエコシステム拠点都市の形成に取り組んできた。
- 令和6年度までの5年間、国の後押しも受けながら、イノベーションを担うディープテック系スタートアップが次々と誕生している。
- 令和7年度には、さらなる発展に向けて第二期の拠点都市として再選定され、ものづくり、グリーン、ソーシャルAIを中心に、スタートアップによるイノベーションを通じて世界を先導し、成長を続けるサステナブルシティの実現を目指している。

■エコシステムの構築と支援体制

- 第一期の5年間では、民間企業、大学、金融機関などがスタートアップ支援に参画している。安川電機、TOTO、第一交通産業などの大企業に加え、中小・中堅企業、北九州市が誘致した企業も支援に関わっている。
- 大学については、北九州市立大学、九州工業大学、早稲田大学大学院、北九州高専などがあり、理工系人材の輩出が北九州の強み。

- 支援体制の中で、エコシステムビルダーと呼ばれるキーパーソンが多数誕生しており、これが大きな成果であると認識。

■資金支援と新規事業

- 令和7年度からはスタートアップへの出資事業も開始。成長支援を担うベンチャーキャピタルを公募・選定し、組成されたファンドに対して市が1億円を出資する。ファンドを通じてスタートアップや地元中小企業、事業承継企業などの成長支援に活用。
- ファンドを通じた支援では、ベンチャーキャピタルが長期的に伴走支援を行うため、より効果を高めることが可能となる。

■課題解決型プラットフォーム「イノベーションゲート」

- 市民、企業、行政、大学が抱える課題を「イノベーションゲート」というプラットフォームに掲載し、課題解決に取り組むスタートアップを募集・マッチングする。
- 東京のスタートアップ・株式会社PoliPoliと連携して市民意見の収集・分析・課題抽出を行い、スタートアップとマッチング、資金調達までを行う一気通貫のスキームは全国初の取組である。

■スタートアップ創出の成果

- 令和2年からの取組により、令和6年度までに101社のスタートアップが集積した。ディープテック分野では、大学発スタートアップの半数以上が東京以外の地域から誕生しており、北九州でも大学発スタートアップが複数誕生している。

- 製造現場の業務効率化、自動搬送ロボットなどを手がける北九州を代表するスタートアップが着実に成長している。
- 北九州のポテンシャルと資源を総動員し、今後もスタートアップの創出と成長支援に取り組んでいく。

【主な講評】

■グループワークへの感想

- 各グループの議論は非常に面白く、関係者とのコミュニケーションや、人を巻き込む仕掛け、関係人口の拡大、コミュニティ形成など、重要な視点が多く含まれていたと感じている。
- 塾生の発表を聞き、改めて「自分たちも頑張らなければ」と気持ちを新たにしたい。
- 塾生の視点から得られる気づきは多く、今後の施策にも活かしていきたい。

■高付加価値化と民間連携の重要性。

- 産業の高付加価値化において、行政だけが頑張っても限界がある。
- 民間の力をうまく成長につなげることが重要であり、産学官金など多様なステークホルダーの強みを生かす連携が鍵である。

■地方だからこそできること

- 顔の見える関係性や、密なコミュニケーションは地方だからこそ可能であり、北九州市でもそれを大切にしている。